

日本名城
日百

岩村城に太鼓判

日本三大山城サミット開催



▲岩村城本丸の六段の石垣と東曲輪上り口付近

8月20日、第7回日本三大山城サミットが開催され、(財)日本城郭協会の「日本百名城」に美濃岩村城をはじめ、備中松山城、大和高取城の三大山城がそろって選定され、認定証の授与式などが行われました。太鼓判を押された岩村城のすばらしさ、あなたも実際に体験してみませんか。

岩村城が日本百名城に

日本百名城は、全国の城郭ファンから推薦を受けた478城の中から、専門家による選定会議から100城を選定したもので、選定対象は、①優れた文化財・史跡 ②著名な歴史の舞台 ③時代・地域の代表の3つの要素から選定され、県内では、岩村城、岐阜城が選ばれました。サミットでは、日本百名城の選定委員長である新谷洋二(東京大学名誉教授)さんの記念講演が開催され、百名城選定の概要、城郭の保存・整備、まちづくりへの活用など実例を挙げ話されました。



▲日本百名城の選定書を受ける可知市長

講演の中で、「一般の人の9割は、城は天守閣だと思っている。城(城郭)とは建築物だけでなく、石垣や堀などの土木構造物を含み、立地選定から計画設計に至る全体的な防御施設を意味する。選定会議では、史実などに基づかない復元、修復がされている城は落選している」と述べられました。三大山城については、「中世の山城として築かれ、近世になっても山城のまま改築され、石垣が築かれ、縄張りとしても郭(曲輪)がしっかりと近世的に作られた。石垣も見事で、明治維新まで現役の城として長期にわたって存続した」と話され、岩村城は、戦国の山城遺構がよく残されていることが評価され選ばれました。

石垣が見守り続けた800年の歴史

岩村城は、約800年前、源頼朝の重臣、加藤景廉が鎌倉時代(1185年)に築いたといわれ、鎌倉・室町時代、戦国時代、さらに江戸時代にわたり城主が連綿として続き、明治維新まで存続し続けました。これは日本史上でも例が無く、名城となる理由となっています。

岩村城は、標高約720mの山頂にあり、眼下に城下町を見下ろし、四方の山々を一望することができます。天然の険しい地形を巧みに利用した要害堅固な山城で、全国の山城の中では最も高地にあり、日本三大山城の一つになっています。霧のわきやすい地形も城づくりに生かされ、別名「霧ヶ城」とも呼ばれています。

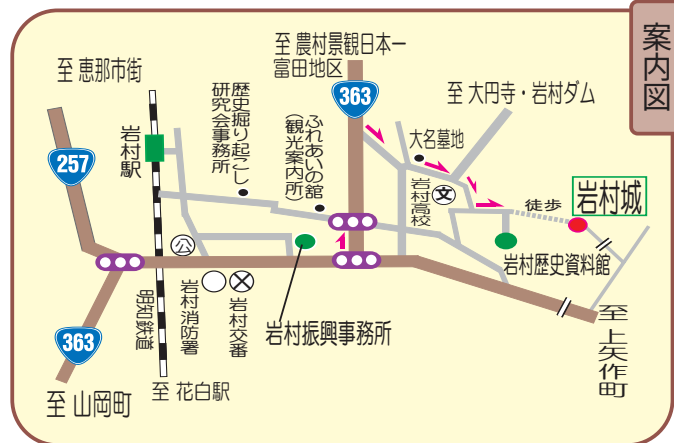
岩村城の歴史でもっとも華々しかったのは、戦国時代で武田、織田、徳川の勢力がぶつかり合う、力と力の接点となり、わずか28年の間に城主が激しく交代しました。7歴代城主のうち5人が戦死、刑死、暗殺死という非業の最期をとり、この時代に事実上の女城主も登場しました。

【参考】岩村城のあらまし(岩村町歴史シリーズその1) 旧岩村町教育委

員会発行

岩村城への行き方

□岩村城上り口まで
▽車で行くⅡ中央道恵那ICから国道257号で岩村城主藩主邸跡の岩村歴史資料館まで約20分
▽鉄道で行くⅡJR中央線恵那駅から明知鉄道で岩村駅下車(約30分)、岩村歴史資料館まで徒歩約20分
□岩村城本丸まで 岩村歴史資料館から徒歩で約1km(約20分)
※別のルートから車で岩村城出丸まで行くこともできます。



岩村城の歴史の魅力を聞いてみました

美濃岩村・歴史掘りおこし研究会 代表 西尾精二さん

日本三天山城として日本一の標高を誇り、天然の険しい地形にある岩村城は、戦国時代に落城したことは無く、2度の攻防戦に開城はしていないが、力攻めで屈してはいません。難攻不落の要因には、山城でありながら、水が豊富で17の井戸を持っていたこと。食料は伊那谷を通じて尾根伝いに牛が運んだことや、水餅という保存食を蔵に蓄えていたことが歴史資料から分かります。

2度の攻防戦では、天正元年(1573)時代、女城主といわれる城主遠山景任の未亡人が城主御坊丸(8歳)に代わり防戦したとき、敵将秋山信友が密使を送り、説得し無血

歴史資料から岩村城を知る

岩村歴史資料館43-3057(月曜休)

岩村歴史資料館には、岩村城の歴史を裏付ける、岩村城を理解するのに参考となる文化財などの資料が多くあります。

明和3年(1766)の岩村城平面図をはじめ、岩村城主松平乗寿が大阪夏の陣に着用した血染めの具足、火縄銃など戦国の世をほうふつとさせるものから、全国的に有名な儒学者佐藤一斎の肖像画、下



▲城主松平乗寿が着用した血染めの具足

田歌子先生の展示もされています。岩村城の縮小模型もあり、実際に攻城に登った道のりをたどることもできます。ぜひお立ち寄りください。

▼料金Ⅱ一般400円、高校生以下無料

□問い合わせ 美濃岩村歴史掘りおこし研究会 43-2354